

式 辞

三寒四温を繰り返しながらも、桃の節句を迎え、季節は着実に春に向かっていきます。

今日は、別れを惜しむかのような涙雨となりましたが、春の訪れを感じる今日の佳き日、愛知県立小坂井高等学校 第四十七回 卒業証書授与式を挙げるにあたり、PTA会長様をはじめ、学校評議員、中学校の先生方、同窓会長、PTA役員の皆様など、多くの来賓の皆様にご臨席賜りました。あらためて厚く御礼申し上げます。

卒業生へのはなむけの言葉に先立ち、保護者の皆様に、一言お祝いを申し上げます。

保護者の皆様方におかれましては、お子様の入学以来、その成長を見守り続け、今日のみき日を迎えられたお慶びは、ひとしおのこととご拝察し、教職員一同を代表して、心からお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

ただいま卒業証書を授与した皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本校第四十七回生として、本日ここに卒業証書授与式を迎えました。心から祝福いたします。

皆さんは、この3年間、小坂井高校での活動を通して、知力と気力、そして体力を磨き、自分を高める努力を続けてきました。そして、今日、仲間とともに紡いできた多くの思い出とともに、より広く、より大きな世界へと羽ばたいていく日がやってきました。

また今日は、皆さんを深い愛情で支えてくださったご家族、熱心に指導をしてくださった先生方、ともに活動してきた先輩や後輩の生徒たち、そして日ごろから本校を支えてくださっている地域の方々とのつながりを、改めて振り返るときでもあります。これまで支えてくださった様々な人々とのかわりに感謝し、学んだことをこれからも大切にしてください。

皆さんが本校に入学した当初は、新型コロナウイルス感染症の影響の只中にあり、様々な制約が続く中で高校生活が始まりました。そこから一年以上にわたり、学習、行事、部活動等を思うように行うことができない、不自由な日々が続きました。様々な不安や満たされない気持ちもあったことでしょう。

しかし、そのような状況のなかでも、皆さんは落ち着いて学校生活を送ってくれました。社会の状況を見極め、できることの中でやるべきことをしっかりやろうと取り組んでくれました。その姿勢に、改めて感謝の意を表します。

感染症対策が緩和された昨年度の5月以降は、私たちの生活もほぼ通常の状態に戻り、学校も落ち着きを取り戻すことができました。体育祭やはぐま祭などの学校行事も、これまで内に秘めていたエネルギーを解き放つかのように、大きな盛り上がりを見せてくれました。数年ぶりに見るあなたたち高校生の躍動する姿に、改めてたくましさを感じたことを、今でもありありと覚えています。

「青春って、すごく密なので」と言った、高校野球部の監督さんがいましたが、皆さんが、辛かったこと、楽しかったこと、悔しかったこと、嬉しかったこと、思うようにいかなかったこと、望みが叶ったこと、そのすべてが濃密な青春の一部であったと、そして充実した高校生活を送ることができたと、前向きに捉えてくれるのなら、嬉しく思います。

さて、皆さんは、伊能忠敬という歴史上の人物をご存じでしょう。江戸時代の後期、日本で最初の実測地図「大日本 沿海輿地 全図」を作った人物です。

千葉県出身で、造り酒屋である伊能家に養子に入り、商人として才覚を発揮して財を成しました。また、村の名主として、飢饉の時には蔵を開けて人々に米を施したり、度々氾濫する川の堤防の建設に尽力したりするなど、村人にも慕われた人物でした。

そのような社会的な成功を成し遂げた人物が、五十歳で家業を引退した後、なぜ日本全国を測量してまわり、日本全図を作る、ということに挑戦することになったのか、私がかねてから不思議に思っていました。

それがつい先日、彼の子孫にあたる洋画家の伊能 洋さんが書いたエッセイを読んだとき、疑問が解けました。伊能忠敬は、地球の大きさを知りたかった、のだそうです。

家業を続ける傍ら、多くの書を読み、学問を続けていた忠敬は、五十歳で引退すると、江戸に出て天文学や暦について学びました。そうするうちに、日本ではまだ知られていなかった地球の大きさを知りたい、という大望を抱くようになります。そして、そのためには緯度一度分の距離を測る必要があるとして、蝦夷地、すなわち現在の北海道に向き、距離を測りたいと幕府に願い出ました。しかし、そんな理由では、幕府も認めるわけにはいきません。そこで、自費でもって蝦夷地を測量し、その地図を作るなら、ということになり、許しを得て蝦夷地へ向かったのです。

こうして彼が作った地図は幕府から高く評価されました。そして、改めて幕府の命を受け、幕府直轄の事業として日本全体の実測地図を作ることになったのでした。

結局、彼は五十五歳から七十一歳で亡くなるまでの十七年間にわたり、全国を測量して回りました。歩いた距離は実に四万キロと言われ、奇しくも彼が知りたかった地球一周分の距離に当たるそうです。

「地球の大きさを知りたい」

その探究心こそが、この歴史に残る冒険的偉業の、そもそもの原動力であったことを知った時、私はロマンを感じるとともに、次の詩のフレーズを思い出しました。

青春とは人生のある期間を言うのではなく、
心の様相を言うのだ。
優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、
怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、
こう言う様相を青春と言うのだ。
年を重ねただけで人は老いない。
理想を失うときに初めて老いが来る。

アメリカの詩人サミュエル・ウルマンの詩「青春」の冒頭です。創造力、意志、情熱、勇猛心、冒険心。大望を抱き、蝦夷地に向かった伊能忠敬の姿に重なります。まさにその一生を、理想を失うことなく「青春」の中に生きた人だったのでしょう。

この詩は、その中段以降、次のように続きます。

年は七十であろうと十六であろうと、
その胸中に抱き得るものは何か。
曰く、驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、
その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、
事に処する剛毅な挑戦、
小児の如く求めて止まぬ探求心、
人生への歓喜と興味。

真理や思想への敬意、挑戦しようとする気持ち、知りたいという探究心、生きることへの喜び、そして人生への興味。こういったことは、何歳になっても心に持ち続けることができます。そして、その心の在り方こそ、「青春」なのです。

小坂井高校を巣立っていく卒業生の皆さんに、そしてここに残る在校生にも伝えます。

いつまでも「青春」であれ。

ますますの活躍を期待しています。

卒業とは、学業を終える、ということですが、新たに出発する、という意味も込められています。いよいよ皆さんも「新たなる出発」をする時がやってきました。

旅立つ皆さんに、私からの「はなむけ」として、最後の宿題を出します。一生をかけてやり遂げるべき宿題です。

あなたが生まれたとき、周りの人は笑って、あなたは泣いていたでしょう。
だから、
あなたがいつかこの世を去るときには、あなたが笑って、周りの人が泣く、そんな人生を送りなさい。

あなたが幸せであることで、周りの人々をも幸せにするのです。
良い人生を送ってください。

結びに、保護者の皆様には、改めてお子様の新たな旅立ちをお喜び申しあげますとともに、これまで本校の教育活動にお寄せいただきました深いご理解とご支援・ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さんが、夢を記した地図を手に、飛び出して行く、その未来に、幸多からんことを心からお祈りし、式辞といたします。

令和七年三月三日

愛知県立小坂井高等学校長 本多 滋 明

サミュエル・ウルマンの「青春」(岡田 義夫 訳)と、その原作である「YOUTH」(リーダーズ・ダイジェスト版)を付記します。

青 春

原作 サミュエル・ウルマン 邦訳 岡田 義夫

青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。
優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、
安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。
年を重ねただけで人は老いない。理想を失うときに初めて老いが来る。

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。
苦悶や狐疑や、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。
曰く、驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる、
人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる、
希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。

大地より、神より、人より、美と喜悦、勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り、人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え、悲嘆の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを堅くとぎすに至れば、この時にこそ人は全く老いて、神の憐れみを乞うる他はなくなる。

YOUTH

Samuel Ullman

Youth is not a time of life — it is a state of mind; it is a temper of the will, a quality of the imagination, a vigor of the emotions, a predominance of courage over timidity, of the appetite for adventure over love of ease.

Nobody grows old by merely living a number of years; people grow old only by deserting their ideals. Years wrinkle the skin, but to give up enthusiasm wrinkles the soul. Worry, doubt, self-distrust, fear and despair — these are the long, long years that bow the head and turn the growing spirit back to dust.

Whether seventy or sixteen, there is in every being's heart the love of wonder, the sweet amazement at the stars and the starlike things and thoughts, the undaunted challenge of events, the unfailing childlike appetite for what next, and the joy and the game of life.

You are as young as your faith, as old as your doubt; as young as your self-confidence, as old as your fear, as young as your hope, as old as your despair.

So long as your heart receives messages of beauty, cheer, courage, grandeur and power from the earth, from man and from the Infinite, so long you are young.

When the wires are all down and all the central place of your heart is covered with the snows of pessimism and the ice of cynicism, then you are grown old indeed and may God have mercy on your soul.